

6年生の授業創造プラン（平成29年度）

	6年生の実態と課題	授業創造プラン	実践記録	成果と課題
国語	【話す・聞く】 ○ペアや少人数での話し合いでは、進んで自分の考えを話せる児童が多い。 ●相手の目を見て集中して話を聞くことができない児童が多い。 ●伝えたいことを端的に分かりやすく話すことに自信がもてない児童が多い。	【話すこと・聞くこと】 ・相手の目を見て話を聞くことを意識させ、メモを取って話の要点をつかませたり、要点を聞き返して答えさせたりする。 ・スピーチや大勢の前で発表する時には、原稿を作成し、伝えたいことが明確に伝えられるようにする。スピーチ原稿も読み返し、誤字脱字の確認や推敲する機会をペアや少人数で設ける。 ・なるべく短い文で話すようにさせる。	【話すこと・聞くこと】	【話すこと・聞くこと】
	【書くこと】 ○はじめ、なか・おわりの文章構成を意識して書くことができる。 ●作文や意見文、読書感想文などで、自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が数名いる。 ●自分で書いた文章を読み返す習慣が身に付いていないため誤字脱字が多い。	【書くこと】 ・文章の構成を考える力が身につくようなワークシートの活用を継続していく。 ・書くことが苦手な児童には、友達と質問をし合う体験を通して、書く材料を増やしていく。また、様子を何かに例えたり、会話文を使ったりするなど、一つの事実について、様々な表現方法で表現させる。	【書くこと】	【書くこと】
	【読むこと】 ○読書に親しみ、進んで読書を姿が見られる。 ○物語文では、登場人物の相互関係や心情を読み取ることができる児童が多い。 ●説明文やテストの問題文の意味を正しく読み取ることができない児童が2割程度いる。	【読むこと】 ・考えの根拠になる箇所にサイドラインを引かせる活動を行い、内容を正しく読み取ることができるようにする。 ・辞書を用いて言葉の意味を調べる習慣を身に付け、語彙力を高める。 ・家庭学習で音読に取り組ませ、保護者と連携して読解力を育む。	【読むこと】	【読むこと】
	【知識・理解】 ○新出漢字の小テストやまとめテストの正答率が高い。 ●授業中のノートや作文などで、既習の漢字を活用することに課題が見られる。	【言語事項】 ・家庭学習で既習の漢字や新出漢字を使った文章を作らせることで、漢字に慣れ親しむ環境を整えていく。 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用し、既習の漢字や言語の定着を図り、日常生活の中でも活用できるようにする。	【言語事項】	【言語事項】
社会	【思考・判断・表現】 ○絵や資料をもとに、歴史上の人物や事柄について考えられる児童が増えている。 ●学んだことを整理して要点をまとめることが苦手な児童が多い。 ●自分の考えを表現することに自信がもてない児童が見られる。	【思考・判断・表現】 ・教科書や資料集、インターネット上の資料等から様々な資料を提示し、共通点や相違点を比べながら、歴史上の人物や事柄について要点をまとめられるようにする。 ・時代の流れを年表や図で表したり、要点を押さえたりする活動を通して、時代背景を想像したり自分の考えをもつことができるようにする。 ・友達と考えを互いに交流する場を設け、考えの根拠を明らかに話したり書いたりすることができるようにする。	【思考・判断・表現】	【思考・判断・表現】
	【技能】 ○単独の資料から必要な情報を読み取ることができる。 ●複数の資料から必要な情報を読み取ることができる児童が少ない。 ●資料に書かれた情報を言い換えることに自信がもてない児童がいる。	【技能】 ・資料から情報を読み取る際、注目するべきところをマークしたり、丸で囲ったりさせ、根拠となる部分を明らかにする活動を取り入れる。 ・複数の資料から必要な情報を読み取る体験を増やす。 ・資料集や辞書を活用し、社会科に関連する語彙を増やす。	【技能】	【技能】
	【知識・理解】 ○歴史上の人物やその人物が行ったことなど、おおむね理解している。 ●言葉や人物を覚えていても時代や人物の関係がつかなくなっている児童がいる。 ●時間が経つと記憶があいまいになる児童が多い。	【知識・理解】 ・歴史上の人物が行ったことについてや時代ごとの様子をノートや新聞にまとめる活動を取り入れ、知識の定着を図る。 ・家庭学習で教科書の音読に取り組ませ、保護者と連携して読解力を育む。 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用して個別に復習させ、既習事項の定着を図る。	【知識・理解】	【知識・理解】
算数	【数学的な考え方】 ○自分の考えを図や言葉を使って表現することができる児童が多い。 ●考えの根拠を書いたり、説明したりしようとするのが苦手な児童が半数見られる。 ●文章題から演算決定をすることに課題が見られる。	【数学的な考え方】 ・数学的な価値のあるつぶやきや発言を称賛し、どのように思考したらよいかや思考することのよさに気付けるよう「こと×ink」を活用して指導していく。 ・ペアや少人数で説明する活動を取り入れ、自分の考えを根拠となる図や絵を示しながら友達に説明することに慣れさせる。 ・問題の数値を簡単なものにしたたり、図や数直線で数量の関係を表したりし、演算決定ができるようにする。 ・問題文を解く前に答えの見当を立ててから求めるよう習慣化する。	【数学的な考え方】	【数学的な考え方】
	【技能】 ○既習事項は、おおむね定着している。 ●分度器、コンパスなどの道具を用いた操作に自信がもてない児童がいる。	【技能】 ・くり返し練習をさせるのではなく、「この数値ではどうだろう」と必要感をもって計算させたり、楽しんで取り組ませたりしながら技能の定着を図る。 ・少人数指導の中で、個別指導をしながら道具を用いた操作が確実にできるようにする。	【技能】	【技能】
	【知識・理解】 ○既習事項は、おおむね定着している。 ●既習事項が定着していない児童がいる。	【知識・理解】 ・導入で誰もが答えられる問題を提示し、既習事項を活用・確認できる授業展開にする。 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用して、既習事項の定着を図る。	【知識・理解】	【知識・理解】
理科	【科学的な思考・表現】 ○観察・実験前の予想したり、仮説をもったりする場面では、自然の事物・現象を文字や記号だけでなく、絵や図などを使って考察し、表現している。 ●観察・実験後の結果から結論をまとめる場面では、予想や仮説と関係付けて考察を言語化することが難しい児童がいる。	【科学的な思考・表現】 ・予想や仮説の場面では、児童同士で共有したり考えを深めたりできる場面を多く設定する。 ・結果から結論をまとめる場面では、重さや長さ、数など量的な表現も加味させながら、予想や仮説と関係付けることができるようにする。 ・自然の事物・現象の観察・実験を通して生物同士の関わりがあることを意識させて取り組ませている。	【思考・表現】	【思考・表現】
	【観察・実験の技能】 ○自然の事物・現象を観察したり、実験を計画的に実施する中で、実験器具や実験機器などを目的に応じて扱っている。 ●観察・実験の視点がわからないまま、実験の過程や結果記録している児童がいる。	【観察・実験の技能】 ・実験器具や実験機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、観察・実験の過程や結果を的確に記録することができるようにする。 ・観察、実験で薬品や器具など正しく扱い、けがや事故の防止に努める。	【技能】	【技能】
	【知識・理解】 ○科学的な言葉や概念を使いながら、自然の事物・現象の性質や規則性、相互関係などについて、実感を伴って理解している児童がいる。 ●学習した内容の定着がやや弱いため、実際の自然や日常生活に適用することが難しい児童がいる。	【知識・理解】 ・実物を観察したり、拡大写真や特徴がわかる動画を放映したりすることなど、ICTを活用して、学習内容の定着を促していく。また、「東京ベーシック・ドリル」などを活用し、既習事項の定着をさらに図っていくとともに、科学的な言葉や概念についての定着を図っていく。 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用して、既習事項の定着を図る。	【知識・理解】	【知識・理解】